

生徒の行動観察による喫煙, 飲酒防止教育の評価

著者	岩田 英樹
著者別表示	Iwata Hideki
雑誌名	平成19(2007)年度 科学研究費補助金 若手研究(B) 研究概要
巻	2006 2007
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00060965



生徒の行動観察による喫煙,飲酒防止教育の評価

Research Project

All

Project/Area Number

18700543

Research Category

Grant-in-Aid for Young Scientists (B)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Applied health science

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

岩田 英樹 Kanazawa University, 教育学部, 准教授 (60322111)

Project Period (FY)

2006 - 2007

Project Status

Completed (Fiscal Year 2007)

Budget Amount *help

¥2,900,000 (Direct Cost: ¥2,900,000)

Fiscal Year 2007: ¥1,500,000 (Direct Cost: ¥1,500,000)

Fiscal Year 2006: ¥1,400,000 (Direct Cost: ¥1,400,000)

Keywords

喫煙・飲酒防止教育 / 中学生 / コミュニケーションスキル / 行動観察による評価

Research Abstract

本研究の目的は,生徒のコミュニケーションスキル,特に喫煙や飲酒などの望ましくない行動をすすめられた場合のコミュニケーションスキルを行動観察によって評価する方法を開発することである。具体的には,ロールプレイングを用いて,実際に子どもが「喫煙,飲酒をすすめられた場面での断る様子」をビデオカメラで撮影し,その映像から生徒のコミュニケーションスキルを複数の評価者によって観察評価することであった。

これまでの予備調査において,生徒の行動観察評価の信頼性に問題がみられた「ノンバーバルな行動に関する評価規準」を再検討し,観察評価者の一致度が高まるような評価規準となるように研究協力者等との検討を踏まえて評価規準を修正した。しかし,残念ながら,性別,教職歴を考慮して選別された37名の学校教員(観察評価者)によって行動観察評価の信頼性等の検討の結果からは,喫煙,飲酒防止教育の評価指標としておおむね活用可能であることが伺えたものの,継続的な改善の必要性が残された。

また,コミュニケーションスキルに焦点をあてた教育プログラムを試作し,予備実験授業を行って研究協力者と共に検討を行なった。その結果,実際の学校において授業を進める上での教育プログラム上の改善が求められる点等が明らかとなった。

Report (2 results)

2007 Annual Research Report

2006 Annual Research Report

Research Products (2 results)

All	2008	2006
All	Journal Article	Presentation

[Journal Article] 教科教育学研究の動向と保健科教育学の課題

2006 ▾

[Presentation] 個別保健指導における支援と評価について

2008 ▾

URL:

Published: 2006-03-31 Modified: 2016-04-21